

生友 第四号

1998年10月31日発行
発行所
平塚市北金目1117
東海大学工学部
生産機械工学科内
東海大学生友会

「生友」第四号発行にあたって

生友会会長 鷺田義昭

生友会機関誌「生友」を久々に会員の皆様にお届けする事が出来まして、会長としてこれ程嬉しいことはありません。生友会は何をしているのか、解散してしまっただのか等会員の皆様並びに生産機械工学科の先生方からの叱責を肌身に感じ、昨年八月より、副会長共々青木先生始め同窓生の先生方のお力を戴き、一からの出直しのための組織作り、生友会会則の改定案作り等を進めて、今年の四月十八日の幹事会で新組織のスタートをきる事が出来ました。機関誌「生友」の発行は、生友会が再び活動を開始したことを、会員の皆様にお知らせ出来た事と思います。生友会が二度と活動を停止する事が無い事を会長として会員の皆様にお約束致します。

生友会が昭和五十六年十一月十五日の設立総会で設立が決議されてから早十七年が経過しました。現在生友会は、第四期目を去る四月十八日の幹事会で仮承認(正式な承認は平成十年度の総会でされる。)されてスタートしました。第四期の生友会執行部の特徴は、組織を大幅に変更しました。代議員会を廃止し幹事会を新設、通常業務における問題の審議・議決をおこなう問題解決のスピードアップを計ることとしたこと、また幹事は、顧問、会計監査以外の生友会本部のライオン部門(広報部、事業部・新設)及びスタッフ部門(会計、書記、渉外)の何れかの業務を行う事としたこと。役員全員参加を基本にするとともに、この基本理念を基に生友会会則の改訂を行いました。来る総会において生友会会員の皆様のご審議、ご承認を戴きたいと思っております。

それでは、今年度の基本的な事業計画をご説明致します。

- 一. 新入生研修会での生友会の説明
年々生友会へ入会する新卒業生の数が減る傾向に有り(生友会自体の存在を知らない学生が多数有る)新入生の段階で生友会の説明をしておく必要が有る。今年は、五月十五、十六日箱根小涌園で開催、会長、副会長が出席した。
- 二. 生友会誌の発行
三. 定時総会の開催
毎年十月最終土曜日(今年は十月三十一日予定)活動報告並びに会計報告及び会計監査報告に関するの審議、承認。
- 四. 生友会会員相互の親睦会
定時総会の後に行う。
- 五. 会員名簿の作成、発行
- 六. 卒業生への生友会賞の授与(学位授与式の当日)

以上生友会の基本的活動について述べましたが、明日の生友会のあり方、活動の方向について事業部で研究しております。会員の皆様には、今後の生友会に期待してください。

役員の内田 淳

生友会副会長 内田 淳



東京国立在住、家族かみさんひとりの二人暮らし、借家住まい、両親元氣、父親は一昨年まで仕事を続けていたがやっと引退してテラノ4WDで走りまわり、パソコンをたたく日々です。

小生は、某重工業(株)で宇宙開発製品の品質保証を担当しております。衛星やロケットの姿勢制御用の噴射装置、ロケットの燃料ポンプ、宇宙ステーション日本モジュールの暴露システム等の製品に係わっており、ロケットや衛星が打ちあがる度に成功・不調で一喜一憂の日々です。ここ数年は、ISO9

001を活用した業務品質の改善活動の企画推進にも関与して土日の6割は出社の生活を送っています。とは言っても、ここ10数年夏休みはきちんとつてかみさんと毎年8日間の旅へ出かけていますし、スキーや旅行にも日帰りとは言え年数回出かける忙しい日々を過ごしております。

卒業後の、生産機械工学科との関わりは約10年ほど前から毎年リクルートで推薦のお願いに伺っているぐらいでした。しかし数年前推薦のお願いに伺ったおり、前事務局長の先生から生友会に名前を貸してくれないか始まり、ここ一年は生友会の活性化・再生化の為に1回/月諸先輩方と打ち合わせでお会いしており学生時代より上下に広いお付き合いをさせて頂く機会を得ております。

学生時代は流体研で中山先生、青木先生等のご指導を受けましたが当時身につけた流体力学やレーザの基礎知識、論理的かつポジティブな考え方・行動力等は、昨今の仕事を含めた生活で非常に役に立っているなとつくづく思うのは小生も人生の年輪を多少重ねたということでしょうか。

生友会では、非力・微力ながら会員皆様方の多少なりとお役に立てる、或いは広い意味で生産機械工学科の為になる活動ができるように心がけたいと思っております。会員みなさまのお力添えを歓迎いたします。

生産機械工学科 講師 荻野弘彦

(生友会 会計)



社会で活躍なさっている諸先輩、卒業生の皆様お元気でしょうか。一九八〇年度生産機械工学科卒業の荻野です。私の近況を書けというおおせを受けましたので、駄文とは思いますが、紙面を汚させていただきます。簡単に履歴を記したいと思っております。学部卒業後、大学院へ進み、一九八六年に日産自動車へ入社いたしました。日産では中央研究所(現在の総合研究所)

の車両研究所に配属になりました。後に動力機構研究所に転属となりましたが、一貫してアンチロックブレーキやパワーステアリングなどの油圧制御システムに関する仕事をさせていただきました。一九九〇年に学部以来ご指導をいただきました中山先生のおかげを持ちまして工学博士号をいただくことができました。日産内では本学卒業の皆様はじめ多くの方のお世話になりました。

一九九五年青木先生、康井先生、橋本先生他諸先生方のご尽力をたまわり、生産機械工学科講師として母校に戻ってまいりました。橋本先生、服部先生と一緒に機械力学の講義を担当しております。私が学部にはいた頃に比べますと基本となるところは同じなのですが、各科目ともパワーアップしたというか、高度な内容まで教えるように感じます。また、授業計画を学生に示すシラバスの作成と配布、学生による先生の授業評価等新しい試みが導入されています。他の先生も書かれますと思いますが、学年制がなくなり、セメスター制が導入され、四年間の学習計画は学生が自分で立てるようになりました。

ですから、学生に配布される時間割は第一セメスター生(一年生春)と第八セメスター生(四年生秋)まですべて同じもので、生産機械工学科で開講されるすべての授業が一覧表になったものです。この一覧表を見るだけでも昔と変わったなと感じます。それから、学内LANが整備され、五号館へ出かけていってコンピュータを使うことがほとんどなくなりまして。科学技術計算なら自宅からでもできるようになりました。(電話代がばかになりませんが)

研究としては、会社時代のテーマを継続し、アンチロックブレーキシステム、パワーステアリングシステム、車両の運動解析等を行っています。実験室にアンチロックブレーキやパワーステアリングシステムの台上実験装置を組み上げ、圧力変動の測定や液柱分離現象の観察などを行っています。研究費が不足気味であることと、実験室が狭いのが悩みの種です。口の字形をした実験室三、四棟、五棟がなくなくなり十二号館ができたことは多くの方がご存じだと思いますが、実験一、二、六棟は昔のまま残っている

ということもご存じでしょうか。六棟の吹き抜けはなくなりましたが、基本骨格は昔のままです。やはり新しく広い実験棟がほしいと思ってしまうと思います。最後に諸先輩、卒業生の方々にお願いをして、この文章を終わらせたいと思います。大学は今、十八歳未満人口の減少に伴う受験生の減少や社会の変化により大きな変革期にさしかかっています。皆様により一層の暖かいご支援をお願いいたします。

生産機械工学科の現状

主任教授 伊藤 高根



生友会の皆様、皆様にはこの生友会誌で初めてお目にかかる方々がほとんどだと思いますが、今年度より主任教授を仰せつかっております伊藤と申します。今後

ともよろしくお願い申し上げます。ご存じの様に生友会会員数も三千名を越える大所帯になり、お互いの消息も、母校の様子も判かりにくくなって来ているのではないのでしょうか。このような時期に、驚田会長をはじめ役員の方々のご努力により生友会誌が発行される運びとなりましたことは大変結構なことだと思います。人生永くても百年です。この間に一人の人間が知り合える人の数は極限られたものです。特に同窓会を通じて知り得た知人は、先輩、後輩、同期と年齢的にも、職種の広がりも大きく、また利害を超えた付き合いができて、いざというときに本当に頼りになる仲間だと思えます。これからお互いに大切に行きたいものです。そのような意味で皆様の絆の共通のよりどころである生産機械工学科が現在のどのようになっているかを簡単に紹介しておきます。

先ず教育の体制としましては、以下の十五名の教員がそれぞれの括弧内の分野を担当し教育及び研究の推進を行っています。
教授・青木克巳(流体工学)、伊藤高根(熱工学)、

志田 茂(加工学)、橋本 巨(機械力学)、高田浩之(特任教授:流体工学)

助教授・太田紘昭(流体工学)、香川勝一(加工学)、北澤敏行(材料力学)、小金澤鋼一(機械力学)、澤村 洋(加工学)、森下忠衛(加工学)

講師・岡永博夫(流体工学)、荻野弘彦(機械力学)、笹沼節夫(機械力学)、服部泰久(機械力学)

このほか、学生の教育、指導について佐藤 清さんが十二号館地下の機械工場でフライス加工を中心の実験実習、吉沢好良さんが設計・製図・CAD、田口時生さんが就職指導を担当されています。生産機械工学科の本拠地は十二号館七階で、事務室もここにあります。嶋崎紀子さんとアルバイトの青木香さんの二名で一切の業務を切り盛りしています。

学生の定員は、学部学生はそれぞれの学年とも百二十名ですが、実際の在学生の実数は多少多く一学年当たり百三十から百四十名程度となっています。大学院はご存じのように機械系三学科(動力、生産、精密)から生産機械工学科からの進学者は毎年六、七名でまだ多くはありません。これからの工学、技術の進歩、発展等を考えますと大学院の位置づけはますます重要になり、大学院への進学を大いに奨励しています。ちなみに来年度大学院推薦入学希望者は十一名で、最近にない数となっています。

次に、学生の就職状況ですが、昨年度の実績では、就職希望者の就職率は100%でした。世間一般には不況が長引いて今年度は特に厳しい様ですが、生産機械工学科に対する求人は幸いなことに比較的多く、内定率も昨年を上回る状況となっています。各企業における生産、製造技術者に対する求人は多く、モノ造りを大切にしてきた日本の製造業の特徴の現れであり、この状況は今後も持続されると思われれますが、肝心の生産機械工学科の学生がそのことになかなか気づかず、製造現場に行きたがらず、よくわからぬままに設計をやりたいと言う者が多いのには困ったものです。時間ができ、湘南校舎方面に來られ

る機会がおりならば是非大学にお立寄り戴き、出身研究室にもお寄りください。在学生の諸君に先輩の皆さんの企業における経験談でも聞かせていただければ、彼らにとって大いに参考になることと思えます。企業の宣伝もかね、是非おいでください。今大学では、このところの十八歳人口の減少に対して質的な維持向上を計るための確且つ早急な対応を迫られています。東海大学だけではなく、これは全ての大学に共通の問題ですから、どこも必死に改革を目指しています。東海大学では、より魅力ある大学にして行くためにいろいろと施策が検討がなされていますが、その一つとして現在工学部をはじめ全学的に改組改編の検討がなされています。学科の改編も時代の要請にあわせてタイミングを失することなく進めていく必要があります。場合によっては伝統ある「生産機械工学科」と言う名前そのものも変えていく必要があるかも知れません。教職員一同常に最善の努力をして参る所存であります。同窓生の皆様におかれましては、母校及び出身学科の継続的な発展のためにお知恵をお貸しいただくとともに、今後とも何かとご協力を戴きたくよろしくお願い申し上げます。

研究室紹介

生産機械工学科 教授 志田 茂



「(株)セイユウの東海人です。今日は求人件数にお願ひに参りました」
「はじめまして、就職担当の志田です。遠路おいでいただきありがとうございます」

「私は生産機械工学科のOBです。通いなれた道ですが十二号館はやはり駅から遠いですね。卒業してから七年になります」

「私は平成六年に日立から東海大学に移って来ました。東さんとすれ違いですね」

「そうですね。卒業してから大分先生が変わられたようです。何を教えておられますか」

「生産加工学と材料力学です。ところで、最近不景気な話ばかりで企業は大変だと思えますが、製造業は以外と忙しく活気があるのではないのでしょうか。生産機械工学科への求人もかなり多いですし、OBのリクルーターも結構来られます」

「弊社のセイユウは、それほど大きな会社ではありませんが、メカトロ部品の世界トップメーカーです。今いくつかの企業とのライアンスで、使い勝手のよい新しい機構部品の開発に懸命です。バイタリティがあり物作りのセンスのある若い力が必要です。しかし、製造業という成熟分野というイメージが学生にはあるのではないのでしょうか」

「私は学生に機械は永遠に変わり続けるという話をします。加工機械の変遷、変える原因となった関連分野の進歩や環境の話をし、機械は自分では変化しないから、二十一世紀は君達が変わることになるねと学生に物作りとは何かの話をするようにしています。就職で学生が製造業を嫌がる傾向はあまり見られませんね。ところで、コーヒーは如何ですか」
「ありがとうございます。いただきます。ブラックデー」

「成熟産業の代表のようにいわれている鉄鋼業は、実は技術力は世界トップで、しかも七兆円産業を維持しているんですよ。世界中の製鉄所で稼働している圧延機は、ほとんどが日本で考案開発されたものです。私にもこれらの圧延機に関する特許は二十件程あって、大部分期限切れになりましたが、いまでも特許実施料が企業から送られてきます」

「研究室では現在でも圧延の研究を続けておられますか」

「そうです。しかし、情報エレクトロニクス分野を研究の大きな狙いとしていますから、これまでの大量生産向きの圧延機ではなく、様々な電子材料を圧延できる多品種少量生産向きの圧延機を指向しています。次世代圧延機のアイディアもあります。他の一

つは半導体デバイスの信頼性保証の研究です。電子デバイスは接合積層構造ですから接着接合の強度や変形の研究から始めていますが、これから高密度化する半導体デバイスの微小構造、さらにはマイクロマシンの信頼性保証の研究を進める予定です」

「是非、先生の研究室はもちろん、セイユウ向きの学生がおられましたらご推薦下さい」

「こちらこそ。学生の就職の件今後ともよろしくお願ひします」

雑記

生産機械工学科 助教授 香川勝一
(生友会 事務局長)

*建物今昔

約二十五年前は六号館までしかなかった建物が、今では十六号館までに増えました。それらの建物中の十二号館は、生産機械工学科の卒業生には懐かしい三・四・五・七棟跡に建てられたもので、生産機械工学科用の製図室と研究室があります。何と、全て冷暖房完備です。今では豚の悪臭と暑さとは無縁となりました。

*学生今昔

ここ二十年間、生産機械工学科に女子学生の入学が定期的になり、ずいぶんと様変わりをしました。一九九八年度の一年生には五名、二年生には七名、四年生には四名が在籍しています。

*植木今昔

メインストリートの櫛の直径が太いもので約八十センチ、メインストリートに直角な二つの通りがあるメタセコイヤは太さが約一メートルにもなりました。昔は実験棟近辺からも一号館、二号館、三号館が見えましたが、今では全く見ることができません。

湘南校舎写真

最後に、小田急線の「大根

駅」が約十年前に「東海大学前」に変更になりました。駅舎も新しくなり、現在では十両編成の急行が停車するようになりました。

東海大学生友会会則

第一章 総則

第一条 本会は東海大学生友会と称し、事務局を東海大学湘南校舎工学部生産機械工学科事務室に置く。

第二条 本会は、会員相互の親睦向上をはかり、併せて東海大学工学部生産機械工学科の発展に寄与することを目的とする。

第二章 会員

第三条 本会は次の会員より構成される。

- 一. 正会員
- 二. 特別会員
- 三. 名誉会員
- 四. 賛助会員

第四条 会員の資格

- 一. 正会員 東海大学工学部機械工学科生産機械工学専攻および生産機械工学科を卒業した者、大学院工学研究科機械工学専攻を修了した者並びに幹事会の承認を得た者。
- 二. 特別会員 東海大学工学部機械工学科生産機械工学専攻および生産機械工学科に過去勤務していた元教職員および現在勤務している教職員。

- 三. 名誉会員 本会に対し、特に功績があつた者で幹事会の推薦を受け総会の承認を得た者。
- 四. 賛助会員 本会活動に対し、特に理解を示し賛同した個人および法人で、幹事会の推薦を受け総会の承認を得た者。

第三章 組織および役員会

第五条 組織および職責

本会は次の組織で構成される。

- 一. 会長 本会を代表し、会務を統括する。学外一名
- 二. 副会長 会長を補佐し、会長事故有るときはこれを代行する。又、ライン部門の広報部および事業部の統括を行なう。学外二名
- 二. 一 広報部 生友会誌の発行、および会員名簿の発行(随時発行)その他会の広報活動。学内、学外各二名
- 二. 二 事業部 親睦会の開催、会員相互の技術交流促進、および他の新規事業の研究実施。学内一名、学外三名
- 三. 事務局長 スタッフ部門として会計、書記、渉外を統括し本会と学科との連絡、調整、情報収集を行ない必要に応じ会長に報告する。又、次の事項を行なう。
 - (一) 総会の準備および開催
 - (二) 会計報告書の作成および会計監査依頼
 - (三) 幹事会および総会で会計報告
 - (四) 幹事会の開催の準備と開催
 - (五) その他事務事項

三. 一 会計 事務局長の指示を受け、本会の会計を担当すると共に会費の徴収を行なう。又、会計書類を整備し会員からの閲覧の要求に備える。学内、学外各一名

- 三. 二 書記 事務局長の指示を受け、本会の会議に出席し、議事録

を作成、配布、保管する。

三、三 渉外 事務局長の指示を受け、渉外にあたる。

四、顧問 学内、学外各一名

五、会計監査 事務局長の依頼により会計および財務の状況を監査し、書類で事務局長を通し会長に報告すると共に幹事会で報告する。

第六條 役員の選出

一、会長 幹事会の互選によって選出する。

二、副会長 会長が指名し、幹事会の承認を得る。

三、事務局長 会長、副会長、顧問が協議し会長が幹事会に推薦し、幹事会の承認を得る。

四、幹事 会長、副会長、事務局長、顧問で協議し会長が幹事会に推薦し、幹事会の承認を得る。又幹事は、全員第五条に示す何れかの職務を担当するものとする。(会計監査を除く)

五、会計監査 会長、副会長、事務局長、顧問で協議し会長が幹事会に推薦し、幹事会の承認を得る。

六、顧問 幹事会の推薦により会長がこれを委嘱する。

第七條 役員の任期 役員の任期は、五年間とし、再任は妨げない。又役員に欠員の生じた場合補選する。補選による役員の任期は、前任者の残任期間とする。

第八條 本会は、左記の委員会を置き、その任務は次の通りとする。

一、三役会議 会長、副会長、事務局長

で構成され、本会の運営等につき基本的事項を審議し、必要に応じて幹事会に議案提案する。

二、幹事会 会長、副会長、事務局長、顧問および幹事より構成され、会長の召集により随時開催し、会の重要事項を審議決定する。幹事会の決議は、出席幹事(委任状を含む)の過半数による。又、幹事の過半数の要請があれば、会長は幹事会を召集しなければならない。

第四章 総会

第九條 総会は、幹事会の決議を経て会長が召集する。

第十條 総会の決議は、正会員の出席者総数(委任状を含む)の過半数を以て決定する。

第五章 主な活動

第十一條 本会は、第二条の目的を達成するために次の事業を行なう。

一、定時総会の開催(会の活動報告等)

二、生友会誌の発行(広報部)

三、卒業生への生友会賞の授与(会長又は副会長)

四、会員相互の親睦を計る為の親睦会の開催(事業部)

五、会員名簿の発行(随時発行)(広報部)

六、新入生研修会での会の広報活動(広報部)

七、会員相互の技術交流の促進(事業部)

八、その他、三役会議の提案に基づき、幹事会が承認した時限付き活動

第十二條 活動報告は、定時総会にて行なう。

第十三條 本会の事業年度は、毎年四月一日より翌年三月三十一日とする。

第六章 会計

第十四條 本会の運営は、会費およびその他の収入をもって行なう。

第十五條 会費は、正会員、永久会費四千元とする。

第十六條 会計報告および会計監査報告は、幹事会と総会の承認を受けなければならない。

第十七條 本会の会計年度は、事業年度と同じとする。

第七章 会則の改訂

第十八條 本会会則の改訂は、幹事会において出席者総数(委任状を含む)の二/三以上の賛成により決議される。

第八章 付則

一、会員の身辺に変更がある場合は、速やかに本会事務局長に連絡しなければならない。

二、会則の改訂歴

昭和五十六年十一月十四日 制定

平成 三年十一月 三日 第一回改訂

平成 十年 四月十八日 第二回改訂

本会則は、平成十年四月十八日より実施する。

役員氏名

役職	人数	氏名
会長	一名	鷲田義昭
副会長	二名	堀池正起(広報担当)、内田 淳(事業担当)
事務局長	一名	香川勝一
顧問	四名	青木克巳、粕谷平和、鈴木六郎、平井 漠

生友会組織図

```

graph TD
    A[会長] --- B[顧問]
    A --- C[事務局長]
    A --- D[会計監査]
    C --- E[会計]
    C --- F[書記]
    C --- G[渉外]
    A --- H[副会長]
    A --- I[副会長]
    H --- J[広報部]
    I --- K[事業部]
  
```

役職	人数	氏名
会計	二名	佐藤哲雄、荻野弘彦
書記	二名	土方裕之、笹沼節夫
渉外	二名	吉沢良好、浜吉昌樹
広報	五名	太田紘昭、沖 真、柴田勝彦、月館秀俊、岩沢敏文
事業	四名	長谷川寛行、若槻光昭、島田行太、境 千寿
会計監査	二名	山本 徹、斎藤 勝